

# 2020 年度事業報告

## 特定非営利活動法人ふおーらいふ

### 総括

不登校状態にある児童・生徒が法人の教育理念「自主」「自立」「生活と命」に基づく活動へ主体的に参加することができた。また青少年本部、神戸市青少年育成支援事業補助金などの助成を受け、自然体験活動や地域交流を企画し、コロナ禍で消毒ほか対策を講じて、一部臨時休校の措置を取ったものの可能な限り、スクールの児童・生徒たちが安全に各活動へ参画できるようサポートを行い、各活動を通して、児童・生徒たちの意欲を高めることができた。コロナ禍での対応については別紙 1 を参照。

### (1) 青少年が主体となって総合的に学び、育ちあうフリースクールの運営

#### 1. 自然体験・仕事体験の実施

青少年本部、神戸市青少年育成支援事業補助金による助成を受け、里山工房で自然体験活動を実施し、学校外で学び育つ一般参加の小中生を含め、6月は11名、10月は11名、2月は19名の子どもが参加した。

ホームスクーラーや、他のフリースクールの方々との交流の場が実現し、学校に行きづらい子どもたちが、指導者のもとで、ツリーハウス作りや木工作品作りを通して、道具の使い方、自然との共生の意味を知ることができた。また、コロナ禍で色々な活動に制限がかかる中、自然の中で、子どもたちがのびのびと過ごすことができた。



里山工房での自然体験

#### 2. オンラインスクール・アウトリーチスクールの実施

新型コロナウイルスの影響による休校期間の間に、ZOOM を用いたオンラインスクールを実施し、15名の子どもが参加した。また、ZOOM に拒否感のある子どもには、電話やメールでのコミュニケーションを取るとともに、全ての子どもたちの家庭に訪問するアウトリーチスクールを行った。

オンラインスクールでは、休校により、家で過ごす子どもたちが孤立せずに、休校中でも友達やスタッフと話せる環境を作ることができた。また、アウトリーチスクールでは、在籍する子どもの自宅をスタッフが訪問し、直接子どもたちと会う機会や、家庭で遊べるボードゲームを届け、それらをツールに在宅でも子どもたち同士が共通の体験をできるように努めた。



オンラインスクールを実施

#### 3. その他の活動について



3月末に大阪への卒業旅行を実施し、11名の子どもが参加した。事前に、実施方法や感染症対策について子どもたちと話し合いを重ね、安心して参加できるよう工夫した。

また、高校生が活動する高校ステーションでは、垂水区社会福祉協議会の協力のもと、『社会保障』の講座を実施し、1名の高校生が参加した。就職活動をする際や、社会に出て働き始めたときに、役立つ情報を学ぶ機会を提供することができた。



## (2) 学習およびコミュニケーションに関する支援事業

### 1. ひきこもりの若者支援

毎月第4土曜14時から年間でのべ9回、義務教育後に居場所がなく、地域で孤立しがちな若者を対象に、ゆるやかにつながりあえる場「ワカモノサロン」を実施し、各回平均で約5名が参加した。

また、絵本セラピーなど外部からの講師をお招きするイベントを、開催した。

### 2. 放課後クラブについて

10月から月3回の土曜に開催日程を変更し、年間でのべ12日、発達障害などの学びづらさがある小学生の学習支援を実施し、各回平均で約3名の利用者の支援を行った。

### 3. 学習クラブ

9月から、毎週火曜16時30分に開催し、年間でのべ28回、地域の子どもを対象に、算数を主とした学習支援を実施し、各回平均で約2名の利用者の支援を行った。

## (3) 生涯学習に関する機会と場の提供

### 1. 公開講座の企画実施について

11月に公開講座として、こうべLDの会と協働し、くすのきゆり氏を講師に招き、当事者の視点で発達障害をテーマに講演いただき、49名が参加した。

また、思春期講座として渡辺和美氏を講師に招き、6月～10月の全5回で講座を開催し、全回を通して、約20名が参加した。

### 2. フリースクール20周年記念事業について

コロナ禍のため、当初予定されていた書籍が、1年延期となり来期で刊行の予定。

## (4) 教育や不登校などの相談及び支援・情報の提供活動

### 1. 教育や不登校などの相談及び支援・情報提供活動について

当法人多目的室(ルームB)にて、毎月第3土曜日に一般公開の不登校親の会を開催し、年間11回、のべ96名が参加した。うち、年間2回は、不登校当事者を招き、11月に当スクールに在籍しているメンバー、3月に親の会参加者の子どもで不登校経験者を交え、自

身の不登校経験などを聞く場を設け、11月は10名、3月は9名が参加した。

隔月の奇数月第一土曜日に、こうべ LD の会と協働で、発達障害について考える親の会を開催し、年間6回、のべ24名が参加した。

団体機関紙「ゆう通信」を年4回発行し、各回とも会員、支援者、関係機関に向けて、約250ヶ所へ発送した。

## 2. インターンの受け入れについて

今期は、コロナ禍のため、当初予定されていたインターンシッププログラムが中止された一方で、神戸看護大学2名（うち1名はボランティア）、甲南大学1名、立命館大学1名の学生3名を受け入れ、卒業研究のために必要な、現場での体験や、スタッフへの聞き取り調査に協力した。また、卒業研究をきっかけに、ボランティアにつながった事例もあった。

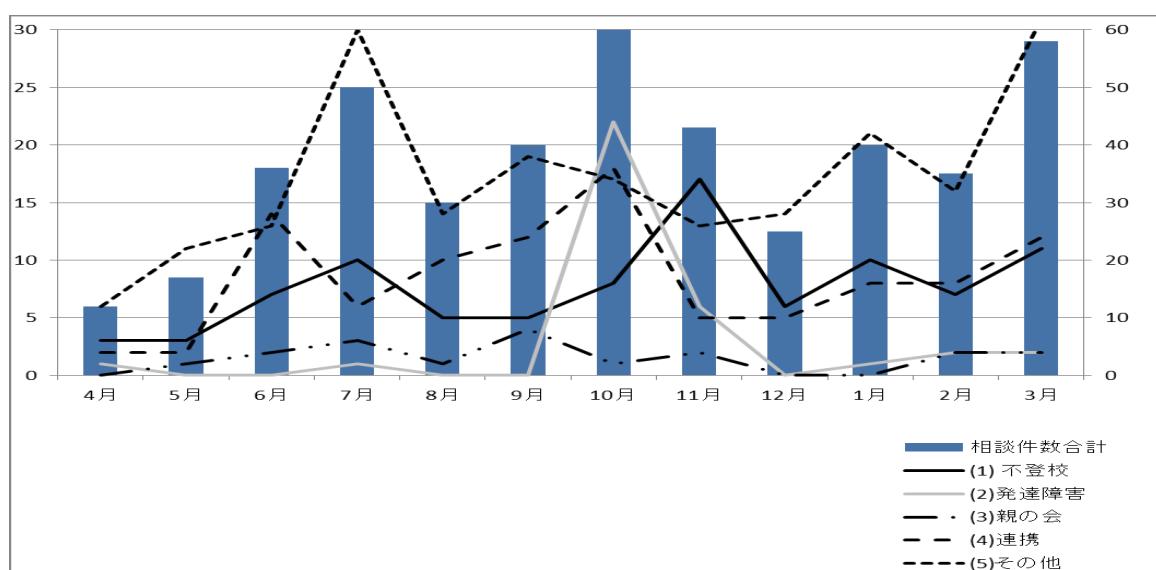
## 3. 日常的には相談支援について

平日に電話、メールによる相談を受けた。年間の相談件数と内訳は、図1、2のとおり。

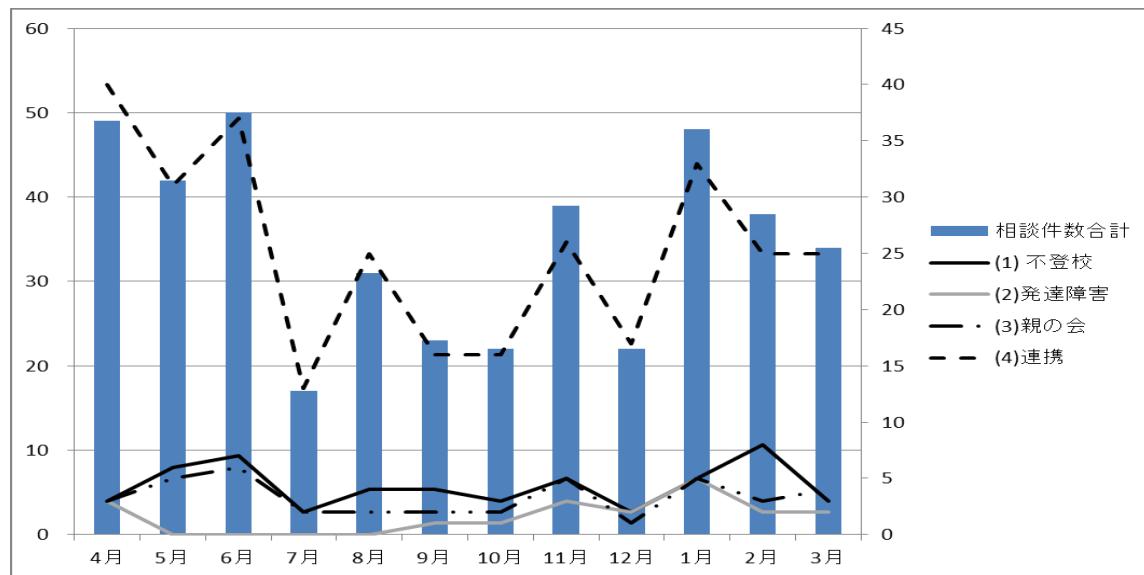
## 4. その他、団体内部での取り組みについて

毎月第2・第4火曜日に、職員とボランティアが情報共有できる場を設定し、各自が抱えるケースの共有を行った。

（図1） 2020年度の電話相談件数の推移



(図2) 2020年度のメール相談件数の推移



## (5) その他第3条の目的を達成するために必要な事業及び前号の事業に付帯する事業

### 1. 当法人の地域参画等について

フリースクール全国ネットワーク、ふりー！すぐーりんぐなどが主催する会議体において、不登校支援団体との意見交換や各種提言、企画などに協力した。また「義務教育の段階における普通教育に 相当する教育の機会の確保等に関する法」(教育確保法)の成立に伴い引き続き「兵庫県フリースクール連絡協議会」に主体的に参画し、各教育委員会(神戸市／明石市／尼崎市など)との連絡会に参加し、不登校の子どものために、より良い環境設定の要望を示した。その他、当法人の蓄積(教育・福祉・子ども・青少年)を活かし、神戸市垂水区社会福祉協議会と協働し、赤い羽根共同募金を財源とする公募型助成事業の仕組みづくりに従事した。また、NPO法人しゃらくが受託する神戸市協働と参画のプラットホームの運営のうち、持続可能な開発目標(SDGs)をテーマとした神戸ソーシャルセミナーの企画・開催に携わった。